

松山市教育会情報

発行所 松山市教育会
松山市祝谷町1-5-33
☎ 089-933-0354
発行者 松田 邦雄
編集 調査研究部

愛顔あふれる



副会長
大江 保



「子規さん俳句かるた」より

松山市教育委員会 編
松山市立子規記念博物館 監修

テレビをつけると、世界各地を紹介する番組でした。ある祭りの珍ゲームだったのか、水着で道路に長座し、その両足を人に引っ張ってもらい、お尻だけで2m進むことができたなら、望みが叶うというものでした。ナビゲータ役のタレントが挑戦し、悲鳴を上げていました（途中で断念）。スタジオは爆笑、本当に痛いのか再現しようと、あるタレントが指名されました。痛みに悲鳴を上げる姿を楽しむなんて……。これって、笑えますか。見るに堪えず、チャンネルを変えました。

「どうか、子どもたちよ、これを『笑い』と捉えないでほしい。」と願うばかりです。

「愛顔あふれる愛媛県」は、私たちの大きな指針です。人と人との助け合い、支え合いの根底には「愛」があります。困難にくじけることなく挑戦し、道が開けた時には「笑顔」がこぼれます。愛と笑顔が結ばれ生まれたのが「愛顔」です。愛ある愛媛にふさわしいすてきな言葉です。

「愛顔」を思う時、私は落語を思い浮かべました。なぜか、私なりの理由を説明します。落語が庶民の楽しみとして演じられるようになって二百年以上、なぜ、落語が現代も語り継がれてきたのでしょうか。ただ、おもしろい、楽しいからといっても、いつしか消えた噺もあるでしょう。

粗忽者の八五郎と熊五郎が主人公の噺です。そそっかしい八五郎は、浅草観音で行き倒れと遭遇します。その顔を見るなり、熊五郎に違いない。行き倒れの友達をこのままほっとくわけにはいかないと本気で考え、本人を呼びに行く。熊五郎は熊五郎で、「浅草観音でお前が死んでいた。お前はおっちょこちょいだから自分が死んだことにも気が付かないんだ」と八五郎に真顔で言われ、納得してしまう。熊五郎は、八五郎に付き添われ、自分の死体を引き取りに行く……。

これは古典落語の一つ『粗忽長屋』です。二人の主人公の大まじめでそそっかしい勘違いが、滑稽でおもしろい。ばかっているけど憎めない。そこには、温かい人情を感じます。『粗忽長屋』を例としましたが、古典落語には、根底に人間愛が脈々と流れているように思います。そして、落語を愛し、登場人物を愛し、思いやりをもって演じていく歴代の数々の噺家の持ち味も相まって、飽きることなく永く語り継がれてきたのだと思います。数多くの新作落語が生まれています。根底に愛がある噺にまで磨き上げられていくと、古典落語の仲間入りをしたいと思います。

「笑い」の最低条件は、いやな思いや辛い思いを誰もしない事だと思います。自然と顔がほころび笑顔になる、そんな笑いは、心を穏やかにし、優しくもしてくれます。人に元気を与える元気玉にもなりますし、人間関係を滑らかにもしてくれます。教育に携わる私たちには、「笑い」があふれ「愛顔」があふれる社会を築き広める使命があり、その力があると信じています。

平成27年度 報 賞 者

松山市教育会



(窪田支部)
池田 辰夫 先生
理事・支部長



(余土支部)
明神 久武 先生
事務局長



(みどり支部)
沖廣 祥子 先生
事務局長



(和気支部)
松本 光史 先生
事務局長



(八坂支部)
升岡 浩 先生
事務局長



(潮見支部)
鈴木 智光 先生
事務局長



(福音支部)
渡邊 恵理 先生
事務局長

「えひめ教育の日」記念事業

「まつやま教育フォーラム27」高齢慶祝者(白寿・傘寿)名簿

	氏名	支部		氏名	支部
白寿	一色邦利様	雄郡	傘寿	井上演子様	余土
白寿	岡田章敬様	坂本	傘寿	松原隆様	余土
傘寿	永井保雄様	味酒	傘寿	山内浩様	余土
傘寿	山口雄三様	味酒	傘寿	山田和美様	伊台
傘寿	京口妙子様	味酒	傘寿	宮内彰廉様	小野
傘寿	三浦誓淳様	新玉	傘寿	宮内久司様	小野
傘寿	高橋研一様	清水	傘寿	高木千鶴子様	小野
傘寿	清水弘子様	清水	傘寿	桑原俊樹様	小野
傘寿	平松則重様	久枝	傘寿	藤田和子様	石井
傘寿	岡崎邦夫様	久枝	傘寿	末松齊様	荏原
傘寿	河合淳様	三津浜	傘寿	水口玲子様	荏原
傘寿	岡部叙様	宮前	傘寿	富永安保様	たちばな
傘寿	清水令子様	高浜	傘寿	岡田ヤサシ様	たちばな
傘寿	北岡杉雄様	味生	傘寿	一柳吉彦様	椿
傘寿	森重子様	桑原	傘寿	姫田祐輔様	石井北
傘寿	三好靖子様	桑原	傘寿	長岡芳朗様	石井北
傘寿	竹野皆江様	生石	傘寿	泉妙子様	みどり
傘寿	稲田彌生様	生石	傘寿	岡本恭子様	姫山
傘寿	大原義謙様	垣生	傘寿	塩谷弘子様	姫山
傘寿	渡部修治様	道後	傘寿	坂井弘様	難波
傘寿	森山純一様	道後	傘寿	北尾義次様	北条
傘寿	大倉可貴様	湯築	傘寿	石丸博子様	河野
傘寿	柏井正子様	湯築	傘寿	佐伯幸雄様	栗井
傘寿	大政恭子様	余土	傘寿	丸田寿万子様	中島
傘寿	武智満様	余土			

思い出の学校

変容した石井小学校

大政 恭子 (余土支部)

昭和47年に赴任して10年間お世話になりました。

当時の石井小学校は西側に正門があり、校舎も今の運動場のところでした。南中学校が同じ敷地から現在地へ移り校地整備のスタート年でした。東側の運動場に体育館の工事が始まり秋の運動会は、南中学校の運動場で開催。以来10年余の間に旧石井小は5校区へと分離、現在は学校北側に広い道路が開通し便利です。

私は新設された特殊(現在の特別支援学級)学級をE先生と二人で低・高学年に分けて担任、独自のカリキュラムをたてて、E先生のご指導で各種のポスター展に入賞(漢字書き写しはできても平仮名が読めない子)等みんな自信をつけて生き生きと登校するようになりました。発声を兼ねて取り入れた詩吟でも自信をつけて入賞し、みんなでお祝い会もしました。詩吟はそれ以来退職するまで児童たちと一緒に練習し発表会の定番にしました。50年度には久里浜の国立研修所へ3か月研修にも行き、皆さんから激励の寄せ書きなど、温かく支援していただきました。

私の愛媛県での障がい児学級30年、現在の生活はその延長線上にあり、就職・結婚して親になった教え子との再会や、両親を亡くしても施設で元気になっている教え子を尋ねて再会を喜び、現在も保護者・本人たちの「手をつなぐ育成会」に所属して各種の行事に参加し、若い皆さんたちと料理教室やスポーツ大会などを楽しんでいます。たくさんの時間を与えてくれた車の運転は傘寿で終了と決めて、人生の締めくくりへと向かっています。



私の原点 野村町立横林中学校

姫田 祐輔 (石井北支部)

八十路を迎えると昔のことがぎょうさん思い出されるものです。心に残る学校といえば、20代の最初の赴任地東宇和郡野村町立横林中学校、私の原点である。昭和30年半ば各学年2クラス編制で、山の上の木造平屋の建物で、生徒は、ダムサイドの集落から40分ほどかけて毎日駆け上って通学してくるのだ。

⊙ 難行だった家庭訪問。マムシが出るというので長靴を履いて生徒の先導で山道を歩く。生徒の「すぐそこです」に安心したもののそこからが遠い。あたりの山の景色に見とれつつもマムシに襲われることもなく無事に到着。

⊙ 野球の練習中にマムシを捉え、処理も全て生徒が済ませ、無残にもそのマムシを棒に巻きつけ職員室の天井に陰干しにした。生徒は、マムシの威力を心得ていたのだ。

⊙ 免許外で女子の体育も受け持たねばならず困惑したものだ。中でも、運動会のダンス披露は頭が痛かった。全校ダンスは「故郷」、無手勝流で振りつけていたものの、見かねた音楽担当の先生に助けてもらった。感謝

⊙ 当時駅伝が盛んで毎日放課後、伴走を5～6キロしていた。自転車でも坂道をついて行けず、平地になると追いつくことができた。通学で鍛えた生徒の脚力は強靱で粘りがあった。駅伝大会では、東宇和郡内でも強豪校になり、数年後ダントツの優勝を成し遂げることができた。

山間部の大雪に悩まされ、吹き溜まりは胸までの深さがあった。下宿先から3～4人が一緒になり、先頭の先生は、道を逸れないように竹の棒で探りながらの危険な通勤だった。こうして最初の赴任地の暗中模索の一年が無事終わった。

80歳を迎える先年、この生徒たちが還暦を迎えたと連絡があり感動の顔合わせをした。

育って咲く学校

佐伯幸雄(北条支部)

高校野球で有名な校庭の前の川へ流れ出る、河鹿の住む矢落川がある。この上流域の豊饒な地に、赴任する柳沢中学校があった。

そこでは、県珠算協会師範理事の木下雪一校長以下、ベテラン揃いの児玉・大滝・河野・森岡・井上・滝内・井上(春)・村上等の諸先生、親切な用務員さんが、担任予定の生徒と共に立って微笑みながら、私を迎えていただいた。

素晴らしい教育環境に感動した翌日、担任の生徒の輝く瞳を見て、役立つことをしたいと考え、体にみなぎる力を覚えた。一人一人は純真で冷静な生徒だったが、男女間には距離がありすぎる思いがした。「是だ!」と考えて、思春期の過ごし方に取り組んだ。

まず、鉄は熱いうちに打て!のとおり、学生の頃県民文化会館で習ったオクラホマミクサーの曲を使い、フォークダンスで男女が持っている優しい心に気付いてもらうことに力点を置いた。曲を聞いて、相手の動きに合わせて動く。この頃は珍しかったが、クラスで運動会の出し物に選んだ。校舎横の盆踊り大会へ、担任は浴衣で、全員が参加していた。2学期の2回目のロングホームルームでは、グループで行い、良い箇所では誉める方法で臨んだ。グラウンドへ出て踊ると、自然に視線は上向きで肩の位置が円滑に移動していた。ダンスは運動会で成功し、喜びで一杯になった。なお、この雰囲気、全校生徒の間でも緊張がとれて、懐かしい思い出が溢れ出ていた。

住宅生活は、小声も時々大きく弾けた。他方、先生方と味わう温かさは格別だった。また、住宅入口の前に咲く虹色に輝く朝顔の花や蛍の飛び交う夕暮れに、河鹿の鳴く透き通る声の響く川面で飛沫を浴びて、漬け針をしたことが、収穫は零でありながら今更の如く蘇える。

同窓会は一早く持たれて、話題は専ら往時の踊りに集まり、花は幾つも咲いた。喜寿までの年賀状を宝にし、子たちの幸せを願う。

また、在職中木下先生の出納簿のご指導のお陰で、会長の歴任が全う出来たことを感謝する。

鬼北ハイライト

山口雄三(味酒支部)

昭和34年三間町立鬼北中学校講師になった。学校は三間平野のほぼ中央に存在し、すぐ北に三間高校が控えていた。曾我山からの一望は、れんげや菜の花畑が広がり、南に泉が森がそびえる桃源郷であった。

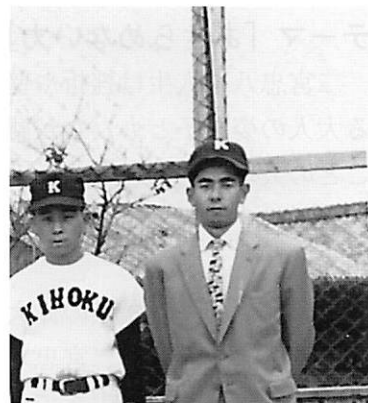
そこに住む人がまたよかった。米田校長をはじめ多士済々、やがてバスケの河野先生や松浦女子が新婚家庭にやって来ることになる。すぐには、新採の佐々木先生とクリーニング屋の裏の2階に同居した。狭い部屋で、彼は2m近くあり、自分が押し入れに半分入って寝た。臭いので鼻の下に、メンソレータムをぬって眠った。彼は2、3年の英語を担当、自分は1年の英語や社会を受け持った。彼はバスケの補助、自分は野球部の監督をした。千本ノックで背骨に痛みが走った。

我々は、野球チームを作って、彼が「鬼北ハイライト」と名付けた。ある冬の日、茂川後輩がセカンドをやっており、ゴロを捕ってサードへ投げたので「何しよんぞ」と駆け寄って見たら彼の腕が折れていた。スーパーカブで、宇和島の病院へ運んだが即入院。そのままにしてカブ号で松山へ帰ったことは、今でも悔やまれる。

野球部のキャプテン金山君は、先に逝ってしまったので墓参りをした。夫人はフィリピンに里帰りしていた。稲垣君を何日も泊めてよく世話をしたのは新妻静子であった。感謝している。26年ぶりに年賀状をくれた西田君は、今年も賀状をくれるだろう。

同窓会にもときどき赴くが、だんだん先に亡くなっているのには困る。自衛隊員だった兵頭君が立派になっているのでびっくりした。皆いい年をくっているので安心、いつまでも元気でいてくれ。

情熱だけで過ごした鬼北の連中に幸多かれ!



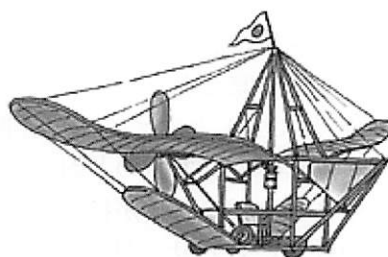
えひめ教育の日 記念事業

まつやま教育フォーラム 27 公演会

H27.11.14(土) 文教会館にて

ミュージカル 二宮忠八物語 ～世界に誇る愛媛の偉人～

人生は向かい風ばかり
でも飛行機は向かい風で空に舞い上がる
人は高く高く飛べるんだ 空に翼広げて
人は高く高く飛べるんだ
向かい風を受けて



講師：坊ちゃん劇場アウトリーチ事業部（俳優3名、音響照明オペレーター1名）

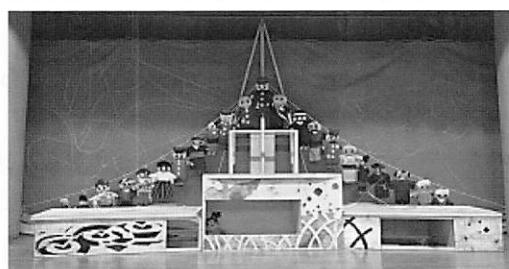
アウトリーチ事業部（アウトリーチ=手を伸ばす）

坊ちゃん劇場に行きたくても行けない方や、より具体的な演劇のノウハウを必要とする方々の要望に答えて、平成25年9月に設立され、地域や学校や企業、団体に出向き、『出張講演』や『出張ワークショップ』を行うプロの演劇集団です。

学校に対しては、役者を学校に派遣し、役者の持っている演劇スキルを用い、学校の要望に応じたプログラム（役者とのディスカッション、役者を講師としたコミュニケーション能力向上ワークショップ、役者の仕事について聞く等）を作成し、子どもたちと身近な距離でワークショップを行っています。

あらすじ

二宮忠八は海産問屋を営む経済的に恵まれた家に生まれ、小学校では飛び級するほど優秀な少年であったが、事業の失敗により、一家は没落し、進学の夢は断たれてしまった。小学校を卒業した忠八は呉服商の子守に始まり、写真技師の手伝い、薬種商見習い、測量技師の助手など様々な職業を転々とし、働きながら、漢学や南画を学ぶ他、物理や化学を独学し、設計図の描き方も習得する。軍に入った時に、飛行機を作ることを上申するが三度も却下され、自分で資金を作り飛行機開発をすることを決意。製薬会社に就職し社長にまで進み、薬学でも大きな功績を残した。そして資金を貯めた忠八は飛行機の制作に取りかかっていく……。



テーマ「あきらめない力」

二宮忠八の人生は挫折や壁の連続で、忠八はそれを乗り越えて成長していた。そんな真剣に生きる大人の姿を子どもたちが観て、そこから生きる勇気をもってほしい。そして、夢や目標を持つことの大切さ、あきらめないことの大切さを感じてほしい。

目的

「偉人顕彰」：愛媛県の偉大な人物を知り、郷土に誇りを持ってもらいたい。

「キャリア教育」：二宮忠八の波瀾万丈な人生を知ること、自分のこれからをどう選択し、どう生きていくかを考えるきっかけとなしてほしい。

「人権教育」：二宮忠八の人生を通し、人と違っていても構わない、ありのままの自分でいても構わないということを感じてほしい。

ワークショップ(30分)

- 1 顔のグーパー等(顔や口の緊張ほぐし)
- 2 手話を入れたワークショップ(手話による歌)

「そら」

そらはいつも わたしを
えがおにしてくれる
わたしが おちこんで
そらを見あげていたら
そらからこえがした
げんきだして とか
あなたはまちがってないよ とか
いろいろなことばで はげましてくれる そら
わたしは あおぞらに かんしゃだね
いつも いつも ありがとう



愛媛県立みなら特別支援学校 高等部3年生 ミュージカル

「雨にも負けず ～いのち輝く、まごころの絆～」挿入歌(作詞：3年生)

参加者の声

- 先日、半世紀ぶりの国産小型ジェット機の試験飛行のニュースに接しました。タイムリーな内容で、公演に引き込まれてしまいました。ちょっと得した土曜日になりました。ワークショップも、参加者が一緒に手話をすることによって、会場が一つになり、心温まる時間となりました。
 - 二宮忠八の生き方を通して、自分の人生についても考えることができました。多くのヒントをいただきました。あきらめないという気持ち、モチベーションの持ち方など、見ていて活力がわいてきました。また、発声の仕方や表情など、子どもを指導していく上でも参考になりました。心に響くととてもいい公演でした。
 - とても感動しました。二宮忠八さんの役をありのままに演じていて、すごいなと思いました。今度は、詳しく二宮忠八さんの伝記を読みたいです。愛媛にこんなすごい人がいるとは知りませんでした。(参加した小学生の感想)
 - 愛媛の偉人を知るいいきっかけになりました。うちの学校の子どもたちにも観てもらいたい内容でした。子どもたちの「思考力、判断力、表現力」を育てるためのいい機会になると思いました。この会にお誘いいただきありがとうございます。(参加した小学生の父)
- * 今年度初めて、松田会長様の声掛けで近隣小学校数校にも案内をし、児童・保護者の参加がありました。

ブロック紹介

ブロック活動のデータベース化を

第1ブロック理事 渡部 英綱

第1ブロックの実質的な活動は、平成24年度の後半から始まった。年度末には、次年度の活動計画を立てた。(雨天の活動を文教会館)毎月の第三水曜日を「わいわい三水会」と名付け、活動を始める。その活動内容は、会報を通じて報告し次回の内容も知らせた。

25年度は、4月の「番町校区の文化財」めぐりから、5校区の文化財巡りなどを含め12回実施できた。夏には、現職の先生方と旅した台風後の「伯方の塩工場・水軍博物館・潮流体験」が忘れられない。年明けには、新年会を兼ねた懇親会を開くことができた。

26年度からは、前年度末に立案した計画に従い活動を開始した。特に、秋の「伊予灘物語り列車の旅」では、臥龍山荘の美しい紅葉が目焼き付いている。この年も活動内容については、毎月会報で知らせている。年明けの新年会では、現職の先生を含め37名の参加を得て、活動の内容等をめぐって大変盛り上がりを見せた。

27年度は、計画に従い「春の美術館めぐり」から、その後は12月までに10回を数えている。ブロック活動が、計画に基づいて実施できる体制が出来上がりつつあると感じている。それは、参加状況をみると、25年度97名・26年度151名・27年12月迄124名と増えていることからいえると思う。しかし、活動への参加状況を見ると、支部により違いが大きい。

今後の課題としては、参加者の層をどう広げるかである。参加者がやや固定化してきているのが気かりである。身体の不自由な会員も気軽に参加できるよう、活動内容を考え互いに助け合う雰囲気をつくりたいものである。最後に、各ブロックで計画・実施した内容は、市教育会で集めデータベース化し、今後会員相互で活用できるシステムは作れないものだろうか。

活動の様子

湯山小中とともに

第6ブロック理事 平野 忠司

湯山地区は松山市の東部に位置し、市之井手浄水場や斎場、石手川ダムなどを有する。松山市の統計によると、昨年11月1日現在、約3,100世帯約8,000人であり、10年前と比べ約200世帯増加したにもかかわらず約170人減少した不思議な現象が起きている。

地区には、湯山小(児童数約450人)と湯山中(生徒数約200人)の2校がある。地区の児童生徒のほとんどが両校に通っていたが、近年は通学校区の弾力化により道後や伊台校区へ通学する児童生徒が増加している実状がある。

湯山支部のOB会員は9名である。運動会などの学校の行事に出席して地域の子どもたちの成長ぶりを見守っている。支部では、会員相互の親睦を図り、毎年12月に教育懇談会を開催している。OB会員が現役会員と杯を交わしながら親しく歓談できる唯一の機会である。

教育懇談会では、小中学校それぞれの取組が発表される。両校が連携して行っている取組の中に、小学校6年生と中学校1年生が行う「俳句マッチ」や6年生が参加して行う中学校の「総体壮行会」の活動がある。1小学校1中学校である湯山地区ならではの取組である。進学を控える6年生にとっては、中学校の行事を事前に体験できる貴重な機会となっている。

続いて歓談となる。1年ぶりに再会する者もあり、和気あいあいの楽しい時間となっている。昔話に花を咲かせたり、悩みや疑問に耳を貸したりと、酒を酌み交わしながら情報や意見を交換し、OBと現職を含めた会員相互の親睦を深めている。

これからも、地域の子どもたちを見守りながら、両校の教育活動を支援していきたいと願っている。